

第37回国際がん登録協議会 (IACR)参加報告



伊藤 ゆり 専門委員

大阪府立成人病センター
がん予防情報センター 疫学予防課

2015年10月8-10日にインド・ムンバイにおきまして開催されました第37回国際がん登録協議会(IACR)に参加しました。今回は”Cancer Registry for Cancer Action”で、「がん対策におけるアクションのためのがん登録」というテーマで、ムンバイの歴史あるがんセンターTata Memorial Centreのホストにより学会が運営されました。15カ国以上から220人の参加、65の口頭発表、100のポスター発表がありました。日本からの参加者は愛知県がんセンターの田中英夫先生、国立がん研究センターより松田智大先生、片野田耕太先生、堀 芽久美先生と私の計5名が参加しました。癌学会の開催日と重なっていたためか、日本からの参加者は例年より少なかったように思います。

日本からは松田先生がKeynote Speakerを務められ、過去の日本におけるがん登録の取り組みから全国がん登録への道のりについて、紹介されました。片野田先生は口演発表において日本のがん罹患のトレンドについて、堀先生はポスター発表にて都道府県別がん罹患率の推計について、私は口演発表にて進行度別がん罹患の社会経済格差について報告しました。

総会ではIACRの新たな枠組みについての提案があり、今後日本がアジアの一国として、また世界の中でのどのような役割を果たしていくかについて考えさせられました。また、三重大学の田島和雄先生が、Honorary Memberとして表彰されましたが、ご本人が参加できなかったため、代理で田島先生のお面を着けた影武者が3名登場し、会場は驚きと笑いで騒然となりました。多くの参加者に”Nice idea!”とお褒めの言葉をいただきました。このアイデアを準備して下さった愛知県がんセンターの皆様、大成功だったことをここに報告いたします。



田島先生のお面を持って

藤本伊三郎賞を 受賞して

堀 芽久美

国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター

この度は、藤本伊三郎賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。私は修士課程在籍時に、地域がん登録に関する研究を始め、昨年度からは国立がん研究センターに就職し、地域がん登録データに基づく罹患数・率の集計を行うようになりました。この間に多くの方々からがん登録の歴史を学び、登録の実際を見学し、時には出張採録にまで同行させていただきました。今回の受賞は地域がん登録に関わる皆様、地域がん登録協議会の皆様のこのような温かいご指導のおかげだと思っています。改めて心より感謝申し上げます。

今回、受賞の対象となった演題は、2015年10月にインドで開催された国際がん登録学会で発表した「Cancer incidence estimation at a prefecture-level in Japan using national mortality and population-based cancer registry」です。全国の都道府県別がん死亡数を利用して、登録率の違いによらず、罹患データ未提出県を含めた全47都道府県別に比較可能な罹患数を推計することを目的とした研究です。学会では、推計方法だけでなく日本のがん登録の制度やがん罹患の動向についても質問をいただき、答えるうちに多くの学びを得ることができました。現在この研究は、死亡数の他にがん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計を用いた推計にも取り組み、より妥当性の高い推計を目指しています。いよいよ2016年1月から全国がん登録が開始され、2018年には全国がん登録に基づく罹患率が報告されます。この研究が今後、全国がん登録による罹患数・率の解釈に役立つ情報となるように、より一層研究に邁進していきたいと思っています。

最後となりましたが、本研究を行うにあたり、日々、多くの助言と指導を下さった先生方に深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、がん登録を活用した効果的ながん対策の推進に少しでも貢献できるよう努力していきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。